資料8

令和7年度　エセナおおた推進事業報告書（概要）

1. 評価の概要

「大田区立男女平等推進センター　エセナおおた」（以下、「エセナおおた」）が、『第8期　大田区男女共同参画推進プラン』（以下、「第8期推進プラン」）に基づき、男女共同参画推進事業を適切に実施したかどうかを評価する。

（1）評価の対象

評価の対象とする事業・期間・資料は下記の通りである。

・対象とする事業　エセナおおたが実施した男女共同参画推進事業

・対象とする期間　令和3（2021）年度～令和7（2025）年度

・対象とする資料　男女平等推進センター　エセナおおた　2021～2025 年度報告書
講座記録紙（2022 年度, 2024 年度）
ワーク・ライフ・バランスに関する意識調査報告（2022 年度）
事業評価会議録（2021 年度～2025 年度）
エセナフォーラム講演会アンケート結果（2021 年度～2025 年度）
大田区指定管理者モニタリング結果「大田区立男女平等推進センター　男女共同参画推進事業：指定管理者自己評価」（令和3年度～令和6年度）

（2）評価員

加藤千恵　京都光華女子大学名誉教授
池田浩久　NPO 法人ファザーリング・ジャパン副代表理事, パパライフサポート代表
今井まゆり　公益財団法人京都市男女共同参画推進協会理事

（3）評価の方法

エセナおおた事業が、「第8期推進プラン」に定められた「4つの基本目標」および「8つの個別目標」の達成に向けて、効果的に企画され運営されてきたかについて評価する。

「4つの基本目標」と「8つの個別目標」	
基本目標	個別目標
Ⅰ　誰もが尊重される安心・安全なまちを築きます	1　人権尊重と男女共同参画意識の向上
	2　あらゆる暴力の根絶
Ⅱ　誰もが活躍できる環境づくりを応援します	1　女性の活躍推進
	2　ワーク・ライフ・バランスの推進
Ⅲ　女性の活躍で地域力を向上します	1　地域における女性の参画促進
	2　意思決定過程における男女共同参画の推進
Ⅳ　地域と協働して計画を進めます	1　地域と協働した男女共同参画の推進
	2　着実な計画の推進

①評価項目

・個別目標との合致：企画・実施された事業が個別目標を実現する内容であったか

・区民ニーズとの合致：事業への参加状況は良好であったか、参加者の満足度は高かったか

・改善の工夫：事業がマンネリ化しないように企画・運営されていたか

・発展性：他団体との連携や新規事業への取組み、視察やメディアの取材状況

②評価基準

評価の基準は下記の3通りとする。

A　優れている

B　概ね適正に実施されている

C　改善を要する

2. 評価の結果

(1)基本目標Ⅰ　個別目標1　人権尊重と男女共同参画意識の向上

評価基準	2021 年度事業	2022 年度事業	2023 年度事業	2024 年度事業	2025 年度事業	総合評価
個別目標との合致	A	A	A	A	A	A
区民ニーズとの合致	A	B	A	A	A	
改善の工夫	A	A	A	A	A	
発展性	A	A	A	A	A	

堅苦しい印象を持たれがちな男女共同参画の講座を身近に感じさせるエセナおおたの手法は他のセンターにも広がっており、高く評価できる。応募人数はすべての年度で募集人数を上回り、区民のニーズをとらえた事業となっている。

(2)基本目標Ⅰ　個別目標2　あらゆる暴力の根絶

評価基準	2021 年度事業	2022 年度事業	2023 年度事業	2024 年度事業	2025 年度事業	総合評価
個別目標との合致	A	A	A	A	A	A
区民ニーズとの合致	A	A	A	A	A	
改善の工夫	B	B	A	A	A	
発展性	B	B	B	B	A	

夫婦間の DV に関する基礎的な講座はもちろんのこと、子どもへの虐待・性暴力、家庭内モラルハラスメント、大人のための性教育、DV 加害者の臨床現場など区民の関心を引くテーマを設定しており、受講することによって暴力の背景にあるジェンダー格差を理解できるよう工夫がされていた。暴力の根絶に向けて重要なのは若年層への意識啓発である。エセナおおたでは、区内中学校、大学へのデート DV 防止出前講座を企画し実施した。

(3)基本目標Ⅱ　個別目標1　女性の活躍推進

評価基準	2021 年度事業	2022 年度事業	2023 年度事業	2024 年度事業	2025 年度事業	総合評価
個別目標との合致	A	A	A	A	A	A
区民ニーズとの合致	A	A	A	A	A	
改善の工夫	A	A	A	A	A	
発展性	A	A	A	A	A	

「女性の再チャレンジ実践講座」は「ぷち起業応援」、「SNS を活用した起業入門」、「オンライン在宅ワーク」、「パソコン講座」などであり、非常に人気がある。平均倍率は3倍近くになっており、区民のニーズに十分合致した事業といえる。女性たちのための広場事業は登録人数は毎年 20～30 人で、「孤独感があったが救いになった」、「身近なモヤモヤから社会問題まで話ができる」、「予約なしで気軽に来られる」、「おしゃべりしながら作業ができて楽しい」など、参加者から好意的なコメントが寄せられている。

(4)基本目標Ⅱ　個別目標2　ワーク・ライフ・バランスの推進

評価基準	2021 年度事業	2022 年度事業	2023 年度事業	2024 年度事業	2025 年度事業	総合評価
個別目標との合致	A	A	A	A	A	A
区民ニーズとの合致	A	A	A	A	A	
改善の工夫	B	A	A	A	A	
発展性	B	A	A	A	A	

男性向け講座の講師には男女共同参画の視点をもった男性を起用しており、エセナおおたが推進プランの趣旨をよく理解し、丁寧な企画・運営を行っていることが窺える。また、子育て中の男性の意識やニーズを把握する努力をしていた。今後もこのような事業が定期的に実施されることを期待する。

(5)基本目標Ⅲ　個別目標1　地域における女性の参画促進

評価基準	2021 年度事業	2022 年度事業	2023 年度事業	2024 年度事業	2025 年度事業	総合評価
個別目標との合致	A	A	A	A	A	A
区民ニーズとの合致	A	A	A	A	A	
改善の工夫	A	A	A	A	A	
発展性	B	B	B	A	A	

「第8期推進プラン」では、「乳幼児がいても、学習や地域活動に参加できるよう、親支援プログラムや各種講座を保育付きで実施」することになっている。評価すべき点は、保育を担当する複数の運営団体に対して、男女共同参画の視点を持って臨んでもらうよう、毎年事前打合せを行っていることである。

2025 年度には、地域の自治会・町会を対象に「男女共同参画視点の避難所運営」の出前講座を開催した。避難所運営ゲームを用いた内容で、今後の広がりに期待する。

(6)基本目標Ⅲ　個別目標2　意思決定過程における男女共同参画の推進

評価基準	2021 年度事業	2022 年度事業	2023 年度事業	2024 年度事業	2025 年度事業	総合評価
個別目標との合致	A	A	A	A	A	A
区民ニーズとの合致	A	A	A	A	A	
改善の工夫	A	A	A	A	A	
発展性	A	A	A	A	A	

エセナおおたの講座のなかには、敢えて「リーダー育成」というテーマが掲げていなくとも、「リーダーは男性」という思い込み(ジェンダーバイアス)に気づく内容が盛り込まれているため、その他の講座も「基本目標Ⅲ-個別目標2」の実現に寄与しているといえる。男女共同参画・女性学・ジェンダーに関する講座を企画し運営し、受講や振り返りを通して職員やボランティアスタッフの男女共同参画意識は確実に高まっている。

(7)基本目標Ⅳ　個別目標1　地域と協働した男女共同参画の推進

評価基準	2021 年度事業	2022 年度事業	2023 年度事業	2024 年度事業	2025 年度事業	総合評価
個別目標との合致	A	A	A	A	A	A
区民ニーズとの合致	A	A	A	A	A	
改善の工夫	A	A	A	A	A	
発展性	B	A	A	A	A	

年1回のエセナフォーラムにおけるワークショップにおいて地域団体との協働開催が実現している。エセナおおたでは絶えず各団体との繋がりを維持しており、参加への声がけを行うなど積極的な支援がみられている。今後は、男女共同参画に関連する団体にとどまらず、区内の産業や地域福祉等あらゆる分野の団体との連携・協働を行い、エセナおおたの活動領域を広げていくことにも期待したい。

(8)基本目標Ⅳ　個別目標2　着実な計画の推進

評価基準	2021 年度事業	2022 年度事業	2023 年度事業	2024 年度事業	2025 年度事業	総合評価
個別目標との合致	A	A	A	A	A	A
区民ニーズとの合致	A	A	A	A	A	
改善の工夫	A	A	A	A	A	
発展性	B	B	B	B	A	

・「情報」に関する事業について

具体的には、ホームページ、X による情報発信である。ホームページのアクセス数は年々増加している。今後は、あらゆる媒体のなかから時代やニーズにあった媒体(たとえばインスタグラム)をもっと積極的に活用したほうがよいと思われる。

・「エセナおおた」の認知度と事業への申込者数の推移

「エセナおおた」の認知度は 21.2%（2025 調査）であったが、男女共同参画推進事業の年度ごとの申込者数（延べ人数）は増加傾向にある。これは、エセナおおたが開催した講座やイベントによる成果である。特に 2025 年度は、講演会や講座の参加者に「気づきや学びがあったか」を尋ね「あった」と回答した人が 92%～100%という、非常に良い結果が得られていた。今後も、男女共同参画意識の啓発とジェンダー格差の解消に向けて、継続的な事業の推進に尽力していただきたい。

3. 事業についての特記事項

（1）地域の団体との連携・ネットワーク

エセナフォーラムにおけるワークショップと展示事業において地域団体との協働が実現しており、「第8期推進プラン」で掲げられた目標値を毎年上回っていた。これはエセナおおたが男女共同参画関連の地域団体との信頼関係を構築していることに他ならず、区民の男女共同参画意識の向上に大きく貢献していると考えられる。

（2）講座の受講生に対する継続的な支援体制

エセナおおたの運営に携わる職員のなかにも、この方法で男女共同参画・女性学・ジェンダーを学習し、現在事業を担当している女性たちがいる。まさに、基本目標Ⅲ「女性の活躍で地域力を向上します」を実現させているのである。

（3）実施事業に対する自己評価体制

講座やイベント等の事業終了後に、参加者の声や改善点をまとめた資料が丁寧に作成されていることがわかった。事業の課題や成果をまとめた総括資料は、改善のための振り返り作業に不可欠であり、さらなる発展につながっていくと考えられる。

また、月1回の「事業会議」も開催され、講座やイベントについて綿密な打ち合わせが行われていた。年度末には、その年度の事業をすべてまとめた「年度報告書」も作成されている。企画、運営、総括、改善という流れが非常に上手く機能していることは、エセナおおたの事業運営の特色として高く評価したい。